

と しよ かん かい けつ 図書館で解決！？ 第33号

しら もの
図書館で調べ物をしてみませんか？



堺市立図書館
平成 25 (2013) 年 2 月 14 日

伊東静雄 堺に住み、堺をうたった詩人

伊東静雄の生涯

明治 39 (1906) 年 12 月 10 日、現在の長崎県諫早市に生まれる。大村中学校、佐賀高等学校を経て、京都帝国大学文学部国文科に進む。在学中の昭和 3 (1928) 年、懸賞募集児童映画脚本の童話『美しき朋輩達』が一等当選となり映画化される。

大学卒業後、住吉中学校(現住吉高等学校)に就職し、終生教職を離れなかった。教員に小説家の庄野潤三、ノーベル化学賞受賞者の下村脩がいる。

昭和 7 (1932) 年、友人等と同人誌「呂」を創刊。同誌に発表した詩が、保田與重郎、萩原朔太郎に認められる。昭和 10 (1935) 年、第 1 詩集『わがひとに与ふる哀歌』を出版する。昭和 11 (1936) 年、堺市北三国ヶ丘町に転居。この地で『夏花』、『春のいそぎ』の 2 つの詩集が生まれる。

昭和 20 (1945) 年 7 月の堺大空襲で、家財の大半と書籍の全部を失い、家族の疎開先である現在の美原区へ移る。昭和 22 (1947) 年、詩集『反響』を出版。翌年、学制改革のため、府立阿倍野高等学校に転勤。

昭和 24 (1949) 年、肺結核を発病、国立大阪病院院長野分院に入院。4 年に近い闘病生活ののち、昭和 28 (1953) 年 3 月 12 日、永眠。

「わが死せむ美しき日のために/連嶺の夢想よ！汝が白雪を/消さずあれ」(曠野の歌)、「今歳水無月のなどかくは美しき。/軒端を見れば息吹のごとく/萌えいでにける釣しのぶ」(水中花)。伊東静雄は、日本語の響きの華麗さと、思索の深さをあわせもつ独自の世界により、今なお多くのファンを持つ詩人ですが、後半生は現在の堺市堺区・美原区に在住し、その風景をうたった多くの作品をのこしています。



キーワードで調べる 「伊東静雄」「近代詩」「日本浪漫派」「コギト」

分類番号で調べる 「911.56」(個人詩集)、「911.52」(詩史・詩人伝・研究)

詩・詩人について調べる

『日本近代文学大事典』日本近代文学館編 講談社 1977-1978 910.26/ニ
近代文学(明治～)に関する総合事典。全 6 巻。

『日本の詩歌全情報 27/90』日外アソシエーツ編・発行 1992 911.03/ニ
日本国内で刊行された詩歌を著者・編者の五十音順配列で紹介したもの。

伊東静雄の作品

伊東静雄は終生教職を離れず、また一作一作の推敲に多くの時間を費やしたため、その短い生涯で公にした作品は約 100 篇に過ぎません(詩集未掲載の詩を除く)。

『伊東静雄詩集』岩波文庫・新潮文庫・旺文社文庫ほか

伊東静雄が生前刊行した 4 冊の詩集(詳しくは裏面をご覧ください)をすべて収録。

『伊東静雄全集』人文書院 1968 981/2 イ

詩作品(詩集未掲載の詩を含む)に加え、散文・日記・書簡・文献目録も収録。

『伊東静雄物語』エフエム諫早 2009 V911/2 イ

音響資料。エフエム諫早で放送された音源を 6 枚組の CD に収録。35 篇の詩の朗読と上村紀元氏(伊東静雄研究家)の解説からなる。

解釈・鑑賞

「中学生が読んでも文意は辿れるものでなくてはならぬ」(書簡より)と書いた伊東静雄ですが、特に初期の作品のなかには、文意を理解するためには何度も読む必要がある詩があります。以下の資料は伊東静雄の詩を理解するための一助となります。

『伊東静雄』杉本秀太郎/著 筑摩書房 1985 981/2 イ

従来恋愛詩とみられていた第 1 詩集『わがひとに与ふる哀歌』を「私と「私の半身」との対話」と独自に読み解き、各篇を収載順に註釈したもの。

『伊東静雄詩集』林富士馬/編 小沢書店 1997 911/2 イ

伊東静雄と親しかった林富士馬が編者だけに、脚注の解題・鑑賞が充実している。

『詩を読む人のために』三好達治/著 岩波書店 1997 B911.5/ミ

島崎藤村から中原中也まで、戦前の近代詩について自身の感想を綴ったもの。三好達治は伊東静雄の戦後の作品を評価しており「訪問者」「夕映」が取り上げられている。

伊東静雄の詩集

『わがひとに与ふる哀歌』

コギト発行所、昭和 10(1935)年刊。大阪市在住の頃の作品。伊東静雄の代表作ともいえる表題作やセガンティーニの絵画に着想を得た「曠野の歌」など 28 篇を収録。

『夏花』

子文書房、昭和 15(1940)年刊。収録作の大部分が堺市北三国ヶ丘町時代の作品。21 篇を収録。序文つきの詩「水中花」「朝顔」、また「燕」「八月の石にすがりて」など、文語による創作が増える。

『春のいそぎ』

弘文堂書房、昭和 18(1943)年刊。堺市北三国ヶ丘町時代の作品。全 28 篇。半数以上が文語詩。「春の雪」「なかぞらのいづこより」が有名。

『反響』

創元社、昭和 22(1947)年刊。全 64 篇。「小さい手帖から」と題された南河内郡黒山村北余部(現堺市美原区北余部)時代の作品 10 篇と過去の 3 詩集の抜粋からなる。

.....
TEL
中央図書館 244-3811
堺市駅前分館 222-0140
中図書館 270-8140
東百舌鳥分館 234-9600
東図書館 235-1345
初芝分館 286-0071
西図書館 271-2032
南図書館 294-0123
梅分館 296-0025
美木多分館 296-2111
北図書館 258-6850
美原図書館 369-1166
人権ふれあいセンター図書ホール 245-2534
青少年センター図書室 228-6331
.....

編集・発行:
平成 25 年 2 月 14 日
堺市立中央図書館
〒590-0801
堺市堺区大仙中町 18-1
Tel: 072-244-3811
Fax: 072-244-3321



愛唱者の多い「水中花」について、鶴ヶ谷真一の『紙背に微光あり』(平凡社)、木田元の『詩歌遍歴』(平凡社)、小川和佑の『花とことばの文学誌』(ア・アップ・クラフツ)が、詩の理解や鑑賞に役立ちます。

伊東静雄についての本

『詩人、その生涯と運命』 小高根二郎/著 新潮社 1965 911/2 オハ

「書簡と作品から見た伊東静雄」という副題通り、伊東静雄の大学時代から病没するまでの生涯を、「書簡と作品」を軸に克明に描き出した伝記。800 ページを超える大作だが、コンパクトなものに、同じ著者による『詩人伊東静雄』(新潮社)がある。

『伊東静雄研究』 富士正晴/編 思潮社 1971 911/2 イ

文学者・評論家・伊東静雄が教鞭をとった住吉中学校の卒業生などによる伊東静雄についての評論・回想を収録。萩原朔太郎・保田與重郎から、庄野潤三・島尾敏雄・三島由紀夫まで、同時代の文学者が伊東静雄をどう評価していたか、あるいはどのような影響を受けたかがわかる。

『読むこと学ぶこと、そして経験』(『読む人間』[文庫版]所収)

大江健三郎/著 2011 B019/オエ

東日本大震災後の 2011 年 6 月に水戸で行われた講演録。小説家自身の実生活と伊東静雄の詩とのつながりについて語っている。



大江健三郎は、十代の頃に伊東静雄の詩「鶯」と出会ったエピソードを『僕が本当に若かった頃』『新年の挨拶』などの小説に繰り返し書いています。

『伊東静雄と諫早』(『夕暮の緑の光』所収)

野呂邦暢/著 みすず書房 2010 914.6/ノ

故郷諫早を生涯愛した伊東静雄を、同郷の野呂邦暢が諫早の側から見つめた随筆。同じテーマを持つ作品に、「詩人の故郷」(『野呂邦暢作品集』所収)がある。

『文学交友録』 庄野潤三/著 新潮社 1995 シヨウ

伊東静雄の住吉中学校での教え子であり、伊東静雄の晩年まで交流を続けた著者による回想録。自伝的作品「前途」(『庄野潤三全集第7巻』所収)にも恩師伊東静雄との交流が描かれている。

伊東静雄と堺

伊東静雄は昭和 11(1936)年末に大阪市内から堺市北三国ヶ丘町(現・堺市堺区)に移り住み、昭和 20(1945)年 7 月の堺大空襲で自宅が罹災したあとは、現在の堺市美原区にあたる南河内郡平尾村菅生、さらに黒山村北余部に転居しました。詩集『夏花』『春のいそぎ』は北三国ヶ丘町時代の作品で、「春の雪」「わが家はいよいよ小さし」などでは反正天皇陵が詠み込まれています。また詩集『反響』の「小さい手帖から」と題された 10 篇は美原時代の作品で、野、灌漑水路、溜池など、美原を特徴づける田園風景がうたわれています。

『伊東静雄と大阪/京都』 山本皓造/著 竹林館 2002 911/2 イ

伊東静雄の京都・大阪での居住地をくまなく調査した資料。伝記的内容も充実している。

『伊東静雄と美原』 堺市立美原図書館 2011 L911/2 トウ

美原時代の伊東静雄を理解するうえで最も簡便な資料。

(紹介した情報は、平成25年2月14日現在のものです。)

